

令和4年度 第2回宇和島市発達支援拠点整備検討委員会 会議概要

【開催日時】

令和5年2月24日（金）18：25～19：40 ※対面とZoomによるハイブリッド方式で開催

【開催場所】

宇和島市役所 801 会議室

【出席者】

委員 10 名。欠席 2 名。

発達障がい児者支援体制検討ワーキング部会員・関係職員 5 名

事務局 7 名

【内容】

報告 施設整備の進捗について

議事 発達支援センターの運営について

【会議経過】

1 開会

事務局より配布資料確認。協議内容に公開について。

進行：委員長

2 報告 施設整備の進捗について

（「令和4年度宇和島市発達支援拠点整備検討委員会資料」P1 説明者：松下係長）

・施設整備のスケジュール、津波避難対応について説明。

【質疑応答・意見】

委員：あけぼの園利用児者等の医療的ケア児を対象にした災害時の避難検討はされているか。

事務局：設計や必要な備品検討についてはその都度あけぼの園に意見を聞きながら行っている。

委員：あけぼの園利用の医療的ケア児については吸引、経管栄養等に必要な器具等は持参されており、常用な設備は今のところ必要ないと考えている。

3 議事 発達支援センターの運営について

（「令和4年度宇和島市発達支援拠点整備検討委員会資料」P2～6 説明者：上杉担当係長）

・発達支援センターの運営に関して、4つの機能（相談支援、発達支援、普及啓発・研修、機関連携）とその概要について説明。

[質疑応答・意見]

委員：リレーファイルの配布状況の把握について。母子健康手帳や新規配布のえひめリトルベビーハンドブックとの棲み分けについて。配布対象者や、保護者の心情を考慮した紹介のタイミングについての3点についてうかがいたい。

事務局：リレーファイルをどなたにお渡ししているかは福祉課で把握している。リレーファイルは本人を知るためのファイルと考えていただき、柔軟に活用していただきたい。柔軟な活用のためにも、保護者、一般の方への周知、支援者（キーパーソン）への活用についての共通理解を図りたい。保護者やご家庭の状況をふまえた対応や配布方法については今後も検討し、支援者間で共有できるようにしていく。

委員：発達支援センター（以下センター）開設後も、保護者の意見を反映させていただき、協議会の内容提示があれば安心である。

事務局：センターの運営内容に関して承認をいただいた後、細かい部分を検討し、令和6年度の運営に向けて予算化する。運営開始後の協議の場については「宇和島市発達支援連絡協議会（仮称）」にて協議していく。

委員：本人・保護者に直接的に関わる支援者の理解啓発や正しい支援のためのスキルアップへの取組を特にお願いしたい。

事務局：当事者、保護者を支える支援者のスキルアップは非常に重要な課題であり、センターの役割と認識している。

委員：学校はセンターの実施する発達検査へのニーズが高い

事務局：センター＝検査機関ではないと考えている。センターの役割を様々な機会に周知していく。

委員長：運営や機能遂行には人が重要。どういう布陣でスタートするのかプランを知りたい。

事務局：現時点での職員体制は7名の予定。人事の関係もふまえ、次回、詳細を説明させていただきたい。

委員長：保険健康課が実施している既存事業及び、既に開始している支援事業や活動とのつなぎについてうかがいたい。

事務局：保険健康課との協議内容、ケースを通じた連携や共通認識の強化等具体的な状況や成果を報告。保護者支援に関してはどの分野でも大切な支援になるため、早期発見、早期支援の意義を支援者間で共有し、より丁寧に行っていくよう検討・実践を積み重ねる必要を感じている。

委員長：今進んでいる、進めていることをつなげあるいはレベルアップしていい形でスタートできる体制、方向性でいければと思う。

委員長：開設までの準備に関するタイムスケジュールについて。もう少し具体的な青写真の提示をしていただきたい。

委員：あと1年しかないという考え方で、開設時に利用者が戸惑わないようにという視点のもと、災害時も日々の運用も様々なアプローチで検討し詰めていくようにしていただきたい。

※センター運営の方向性、子育てに関わる関係機関との連携あり方等、具体策を順次決めていくことを共有した。タイムスケジュールの明確化の必要性を再確認した。

◎閉会

（事務局）：次年度開催日については改めて日程調整を行う。